

=====
ふくしま

2014. 9. 18

復興支援フォーラムニュース No. 76

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

第74回ふくしま復興支援フォーラム
福島市アクティブシニアセンターAOZ (アオウゼ)

福島の小さな町から始まったアート ～土湯アラフドアートアニュアルの事例～

2014. 09. 18

アラフドアートアニュアル総合ディレクター ユミソン

開催の経緯「日常が突如、繰り返さなくなってしまった街と芸術」

・震災のダメージによる町おこし／復興として芸術祭の開催

広大な土地を使った「地域系アートプロジェクト」と呼ばれる芸術祭は日本中で開催され、20年ほど前から始まりこの10年の間に急激にその数を増やしています。大きな企業や行政が手を入れている芸術祭は、集客が100万人にもものぼり100億円以上の経済効果も出ています。その一方で経済効果や集客だけを頼りに企画し、その影響にあずかれずに一度きりで終わってしまう芸術祭もあります。

福島県福島市にある土湯温泉町は212世帯432人が暮らす、山の谷間の小さな温泉町です。震災後、16件あった温泉旅館は震災から1年後には、1/3が廃業に追い込まれました。「フクシマ」が大きく町を覆い、地震や原発事故のあったこの土地に危機が訪れたという話は想像に易いと思います。とは言え2012年8月、私が初めて訪れた土湯温泉町で見た街の景色は、山の中なので津波の被害はないし、地震で倒壊した建物もない。放射線量が高いわけでもありませんでした。

・アーティストから総合ディレクターへ任命された経緯

このように芸術祭を企画した土湯温泉町は、芸術に興味があつて始めたのではなく、町おこしの一環として試しにやってみようと思つて始めました。なので知識があるスタッフはいません。一方、自然災害ではない災害、人の無意識や意識の選択が一年でこのように街の風景を変えてしまう、現実の建物さえ無くしてしまうという事態を目の当たりにした芸術家の私は、見ることで人々の意識を変えるはずの芸術は、どのようにこの状況を見ていけばいいのか理解できずに、土湯温泉町を頻りに訪れるようになりました。そんな中、地域の人々との間で生まれた信頼関係から、私が芸術祭を組み立てる総合ディレクターとなって、芸術祭の開催が決定されました。

展覧会について

・2013年の展覧会「言葉を越えた対話の可能性」

震災後、何も考えずにすごせた日常から、生活の小さな選択ですら自分の態度の正しさを迫られる状況が続きました。私たちは正しさがどのように存在できるのかも考えず、誰かの正しさを非難するばかりでした。望まぬ形で急激に変化した日常を生きる私たちにとって、自分の思想ではなく、思考の理論を丁寧に見ていく必要があると私は考えています。その手法として、身の回りの事象を丁寧に見ていく。見続けることは、事象が持っている様々な属性や背景に見ている人が能動的に気がつくことです。アラブドアートアニュアルでは、『言葉を越えた対話の可能性』を掲げました。

・2013年の出品作品の紹介

・2014年の展覧会「TOLERANCE 奇妙な他者との対話」

昨年は、物事を理解する手法として観察を通した作品との対話を試みました。本年度もその手法は引き続き持ちつつ、その対象と自分との関係を見ていこうと考えています。私たちの周りにある物事は、全てが受け入れられるものではありません。はねつけなければならないものもあります。しかし、受け入れられはしないけれど、はねつける事もできない問題もあります。そのような問題を作品との関係と置き換えました。作品は「奇妙な他者」のような存在。友だちでも他人でも敵でも味方でもない、私たちの問いかけによって現れる不思議な存在です。

・2014年の出品作品の紹介

芸術 / 町おこし / 復興

・「すべての歴史は現代史である」 / 芸術の価値

過去を語る私は、現在を生きています。言い方を逆さにすると、現在の理屈や制度で物事を考えている私によって理解された過去が語られます。現在の理屈とは何でしょう。過去の事実を歴史家が書き記す価値があると判断したのは、現在とは”何か”が違うから記録に値するべきものだと考えからです。現在とは違う”何か”とは、少しむずかしい言い方をすると、現在に内包された問題のことを指します。現在に内包された問題が価値のあるものとして、評価していることを意識することは、歴史に責任を持つ上で重要なことです。なぜなら観察者が評価基準を持つ存在だからです。理屈や制度を通して作られた社会の内側に住んでいる私たちは、変化するそれらの中に問題を見つけ出す外側の視点が必要になってくるのです。

・地元の有力者が復興資金を私物化したお祭り

すべての人間が喜ぶことを行うのは難しく、芸術祭の開催を快く思っていない人もいます。その人たちが言う言葉を要約すると、「復興にかこつけ / 地元だけで楽しみ / ただのお祭り」という3語に尽きます。復興 / 地元 / お祭りとはなんでしょう。別の言い方をすると、「大義の裏に隠れている / 全員に開かれていない / その場限りで生産性がない」と批判をしているのかと思います。ある共通であると信じられている正しさをもちだして、それに

沿っていないということです。個別性ではなく、共通性があり、正しさの強度がありそうなこの言葉について考えていきたいと思います。

・若者の復興による町おこしがもたらすもの

芸術祭には沢山の観客が必要です。そのためには新聞・テレビ・雑誌・ラジオ等の様々なメディアに露出することも必要です。しかしメディアの側の言いたい事の素材として、芸術祭が扱われ、芸術祭の様々な試みを「若者」の「復興」による「町おこし」という言葉が見えなくしていくことに心を痛め、どのように振る舞えばいいのかわからずに、苦勞しました。経済が戻ることを目指しているのか、震災以前に戻る事なのか、震災以前は日常で使うことの少なかった「復興」。

~~~~~

【予告】第75回フォーラム 2014年10月9日(木) 18:30~20:30  
「過去の災害の経験から見えること」  
報告者：高木亨氏(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授)  
会場：福島市 市民活動サポートセンター A会議室  
(チェンバおおまち3F/福島市大町4-15)

~~~~~

【予告】第76回フォーラム 2014年10月23日(木) 18:30~20:30
「原発事故後のリスクコントロール教育実践から」
報告者：二瓶由美子氏(桜の聖母短期大学教授)
会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」
大活動室1 (MAXふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

~~~~~

【予告】第77回フォーラム 2014年11月6日(木) 18:30~20:30  
「田村市の被災状況と復興の課題」  
報告者：冨塚宥暲氏(田村市長)  
会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」  
大活動室1 (MAXふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

~~~~~

【予告】第78回フォーラム 2014年11月20日(木) 18:30~20:30
「医療側から見える医療体制の崩壊～いわき市在住一麻酔科医からの報告～」
報告者：洪浩彰氏(いわき麻酔と痛みのクリニック院長)
会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」
大活動室1 (MAXふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

~~~~~

## 第73回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

9月9日に開催された第73回ふくしま復興支援フォーラムでは、高木健氏（福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会復興委員会事務局長）から「老人福祉施設における避難及び復興に取り組む現在の課題」をテーマに報告をいただきました。27人が参加、活発な質疑応答がなされましたが、会場で提出されたご意見(感想)等は、以下の通りです。

~~~~~  
★ 貴重なお話ありがとうございました。とにかく「避難弱者」を読みます。一人でも多くの人に現状の問題点を認知してもらって、次の災害で少しでも被害が小さくなる対策がとられるように。私ももっときちんと現実の問題について、学んでいきたいと思いました。(K.Y)

★ 『避難弱者』に描かれていた職員の方々の困窮と利用者の犠牲の根底に、弱者を支える専門職、施設をいざというときに下支えする余裕を業種内にたくわえがたいほどに、社会全体が専門職に報いていない、ひいては弱者の方向を向いていないことを感じました。平時から、まず変えていかなければと思います。(D.Y)

★ 介護職員が不足している中で、どのようにして利用者の安心・安全を確保していかなければならないのか、今後の自然災害を考察した上で、対策を生み出す必要があると感じた。(S.M)

★ 普段のニュースでは、あまり大きく取り上げられないが、地域の存続にとって、必要不可欠な介護・福祉の重みを改めて痛感した。特に、施設の職員が自分の家族と要介護者を天秤にかけるといった課題の重みが印象的だった。(D.T)

★ 「避難弱者」の方々の実際の状況を初めてお聞きしました。今後に向けた教訓（すぐできること、中長期に検討すべきこと）を、次世代に向けて考えていくべきだと強く思いました。自身の立場でできることも考えていきたいと思います。ありがとうございました。(R.K)

★ 心に残る話でした。ありがとうございました。(K.K)

★ 特養いいたての施設長さんの話が、生々しくかつ詳細に説明されていたのが印象に残った。高木講師のPP資料が実態を正確に映し出されていたので、非常に理解しやすかった。(H.O)

★ ①高齢社会で、日本全体が特老の待機者の増加するなかで、公的な施設の地域における建築力が必要と思われます。②除染作業に多大な経費を支出しています。まずは、福祉の事業に回すべきだと思います。(M.T)

★ 『避難弱者』の本は読んだが、話を聞くとまた違った印象を持つ避難だけでなく、今も課題だらけということがよくわかった。(N.I)

★ 大変重たい問題を地道に対応していただいている高木さんの努力に感動いたしました。全国に広げたい問題ですね。(S.M)

★ 忘れてはならない福島の実験を何とか、世に広めたいと改めて思いました。(J.M)

★ 今あらためて避難活動の厳しい現状を認識いたしました。(K.F)

★ 本日は貴重なお話をありがとうございました。バスで入所者の方たちが長距離移動された際のエピソードにとっても胸が痛む思いです。この震災を教訓として、今後県内外各拠点での避難時のネットワーク構築などが必要なのではと思います。(N.K)

★ 当時の職員の方々の状況等、生々しい話しに頭が下がる思いです。介護職員の大幅な不足、入所待機数2,208人に対して、一向に問題が続いている状況で、原発災害による影響にもかかわらず、国がなぜ全力でバックアップしてくれないのか、疑問を感じずには居られません。(Y.M)

★ 避難時の写真を見て、大変、身に詰まされました。こういうことは二度と繰り返して欲しくありません。(Y.I)